

### 子どもの本だな 125

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### だいくとおころく

松居直 再話 赤羽 末吉 画  
(福音館書店)

昔、とても流れの速い大きな川があり、何度橋を架けても流れてしまうので、名高い大工が橋を架けることになりました。大工が川を見つめていると、中からぶつくりと大きな鬼が現れて、目玉をよこせば橋を架けてやると言いました。翌日には橋は半分でき、また次の日にはすっかりできあがりしました。鬼は大工に、目玉をよこせと迫りました。大工が逃げるうしろから、鬼は大声で怒鳴りました。「おれのなまえをあてればゆるしてやつてもええぞ」。大工があてもなく山を歩くうち、遠くから子守唄が聞こえてきて…。

大工と鬼の名前あての掛け合いは、簡潔な語り口で物語に緊迫感と力強さを与えています。横長いっぱいのはきは、彩色と墨色の絵が交互に描かれ絵巻物のように鮮やかです。読んでもらえれば、4歳くらいから楽しめます。

(八木)

### 図書館の本棚 453

### リトアニアと杉原千畝 21世紀のリトアニアと日本

重枝 豊英 著 (国書刊行会)

外交官としてリトアニアに勤務した著者は、リトアニアがなぜ国をあげて杉原千畝を顕彰するのか疑問を抱いた。リトアニア国内の様々な場所へ赴き、人々との交流を深めた経験から、杉原千畝やリトアニアに関する自身の考え、意見を述べている。

杉原千畝は、第二次世界大戦時に日本領事館代理としてリトアニアに勤務した。主要な業務はドイツ、ソ連に関する情報収集である。特に日本の軍事行動に影響を与えるソ連の動きを掴むことが重要だった。リトアニアは戦争関係の情報、軍事活動の動きがいち早く察知できる場所とされた。領事館前には、ナチスドイツの迫害を逃れてきた人々が、ビザを求めて押し寄せた。そのほとんどがビザ発給の要件を満たさないユダヤ難民であった。杉原は公務員の服務義務に違反することに苦悩したが、幸子夫人の励ましもあり、ユダヤ難民への命のビザ(日本通過ビザ)の発給を行った。杉原は「人道博愛の精神に至りビザの発給を決断した」と語っている。

ビザ発給行為は、優れた人道行為だとリトアニアは杉原を評価している。戦争やソ連の支配に苦しんできた国として、迫害からの弱者を庇う行為が公平、正義感の強いリトアニア人の心に響いたのではないか。またリトアニア人は日本に対して、技術、経済面で先進国であること、杉原のような国民で構成される国というイメージを持っている。著者は、日本に対する好意と敬意が杉原の評価に反映しているようだと言える。

杉原の顕彰に、記念切手の発売、スギハラと命名された通りや公園が作られた。また、2020年をユダヤ避難民へのビザ発給80周年にあたるとして「杉原千畝の年」とした。杉原ハウス(旧日本領事館)を記念館にしたことで日本や海外から多くの人々がリトアニアに足を運んでいる。両国の合同で杉原記念館の修復活動が行われるなど、両国の明日を創る交流活動が文化、ビジネスともに活発化している。両国の平和とこの先も良きパートナーとして歩んでほしいという著者の願いがよく伝わってくる。

(盛岡)

お知らせ

一日図書館員を募集します

本の整理、貸出や分類など図書館の仕事を体験してみませんか？

- ・日時：2024年4月21日(日) 9:15~16:00
- ・対象：小学6年生~高校3年生  
(図書館の利用者で、責任をもって仕事のできる人)
- ・定員：3名(申込多数の場合は抽選)
- ・申込：本人来館の上、図書館窓口で申込してください。

申込期限は  
4/14(日) 18:00まで



4月の開館日							5月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	<del>2</del>	3	4	5	6				<del>1</del>	2	3	4
7	8	<del>9</del>	10	11	12	13	5	6	<del>7</del>	<del>8</del>	<del>9</del>	10	11
14	15	<del>16</del>	17	18	19	20	12	13	<del>14</del>	15	16	17	18
21	22	<del>23</del>	24	25	26	27	19	20	<del>21</del>	22	23	24	25
28	29	<del>30</del>					26	27	<del>28</del>	29	30	<del>31</del>	

- ▶ ×印は休館日
  - ・祝日の振替休館  
5/1、5/8、5/9
  - ・館内整理日  
5/31
- ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
- ▶ 開館時間：
  - 10:00~18:00
  - ※金曜日のみ  
10:00~20:00

4月	5月	4・5月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
11日	16日			<u>福地(三反長)</u> 地域内 14:30~ 14:50	<u>米田</u> 公会堂 15:00~ 15:20	<u>竹広南</u> 公民館 15:30~ 15:50
18日	23日			<u>原池団地</u> 公民館 15:00~ 15:20	<u>山田</u> 掲示板前 15:30~ 15:50	<u>原</u> 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
25日	30日	<u>広坂</u> 公民館 10:30~ 10:50	<u>上太田</u> 公民館 11:00~ 11:20	<u>塚森</u> 地域内 15:00~ 15:20	<u>太子</u> ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	<u>吉福</u> 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >  
毎週土曜日に  
「おはなしの時間」  
を開いています。

- 🕯 4歳~小学2年生  
11:00~11:30
- 🕯 小学3年生~中学3年生  
11:30~12:00

4月のおはなしは、「花さかじい」「ありこのおつかい」「トラたいじ」「やまのこぐちゃん」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。

地下水

児童室側のカウンタに「エルマーのぼうけんシリーズ」2巻目『エルマーとりゅう』の地図が描かれたハンカチが掛けてある。

1巻目の『エルマーのぼうけん』は、どうぶつ島に囚われた竜の子を、9歳の男の子エルマーが救出す物語。おなかをすかせたトラにチューインガム、サイに歯ブラシ、ライオンにはブラシとくし、リボンを差し出して危ない場面を切り抜け、竜の子を救い出す。初版は1948年。日本語に訳されて60年になる。

今年の干支は辰、年初めの児童室の展示は竜だった。「エルマーのぼうけんシリーズ」3巻(福音館書店)、竜の子のぬいぐるみを見て、「なつかしいなあ。」という声を何度も聞いた。中には「4歳の娘に読んでやったんですよ。とてもおもしろかった。」と、親子二代で楽しんだ話を聞かせてもらった。

児童サービスの拠り所『児童文学論』に、「いつの時代の子どもであろうと、子どものための「傑作」がいつも手の届くところに置いてある限り、その文学遺産をそうやすやすと見捨てる危険のないことは同様である」とある。子どもたちが知らず知らずのうちに「傑作」と出会い喜びをためていく手助けをしていきたいとつくづく思っている。

今、明石で「エルマーのぼうけん展」が開催されている。あのワクワクする世界に出かけてみよう。

(西村)